

公明府中行政視察について（報告）

このことについて、次のとおり実施いたしましたので報告します。

- 1 期間 令和4年10月12日（水）～14日（金）
- 2 視察地及び目的 (1) 帯広市 帯広市の災害対策について
岩内トレイルの概要について
(2) 釧路市 阿寒湖畔エコミュージアムセンターの概要について
(3) 網走市 網走市デジタルファースト宣言について
オホーツク流水館の概要について
- 3 視察者
福田 千夏 府中市是政3-16-4 090-1792-3643
遠田 宗雄 府中市晴見町1-23-27 090-8877-9033
奈良崎 久和 府中市西原町3-24-19 090-1405-3582
高津 みどり 府中市美好町2-27-10 090-5574-5680

- 4 視察内容
(1) 帯広市
■市の概要

帯広市は、北海道東部の十勝地方のほぼ中央に位置し人口は約16万5千人、面積は東京23区とほぼ同じ619.34㎢と広大な面積を有している。明治16年(1883年)に開拓の祖と呼ばれる依田勉三によって本格的な開拓がはじまり農業を主要産業としながらも十勝地方の商業都市として重要な役割を果たしている。

■視察項目 帯広市の災害対策について、岩内トレイルの概要について

担当者	議会事務局 総務課長 田中 彰 議会事務局 総務課議事係 主任補 蓼島 優貴 総務危機対策室 危機対策課長 谷澤 正和 総務危機対策室 危機対策課 係長 高田 敦史 経済部 観光交流室長 加藤 帝
-----	--

■視察内容

札内川、帯広川、戸鶯別（とったべつ）川などが十勝川(全国6位の流域面積)と合流することから風水害対策を中心に帯広市の災害対策について視察した。

初めに議会事務局の田中総務課長より歓迎のご挨拶をいただき、福田幹事長が視察を受け入れていただいたことへの御礼と府中市の概要などを話したあと、先進的に取り組んでいる帯広市の災害対策と、岩内トレイルについて様々な角度から学ばせていただく事に感謝し挨拶とした。

帯広市総務部危機対策室の谷澤課長、高田係長よりプロジェクターなどを活用し、帯広市の地理的条件と被害想定について三本の一級河川があることから、水位情報などの情報がかかすことが出来ず、観測点が多く河川カメラを多く設置していることや地震災害の想定も含め避難所の収容人数を大幅に増やしていることなど詳細な説明があった。

会派からは資料としていただいた「おびひろ暮らしと防災」が府中市の「私の便利帳」と同様の役割を果たしていることや、コロナ禍によって人が集まれなかったことを受けて「インターネットで学ぼうおびひろe-防災」を市職員が作成し、防災に関する動画や資料を公開していることに着目。平成30年(2018年)のブラックアウトの際の対応や令和元年(2019年)の台風19号における府中市の対応など、幅広い意見交換ができた。

また、帯広市は観光に力を注いでおり雄大なサイクリングルートがある。府中市内を自転車に乗り自然観察や観光スポットを回る事業の参考にとの思いで岩内トレイルの概要について加藤観光交流室長に説明をいただいた。

十勝サイクリングルートは延長403キロと広大なコースのため、観光などより身近に関われるよう2.8キロと短い距離をマウンテンバイク（MTB）で走行できる。岩内仙峡の自然を活かしたトレイル（歩くための道）を無料で常駐の管理人も置かず常時開放している。地元の自転車愛好家を中心となって地域の新しい魅力を開拓。自転車専用道とはせず歩行者優先の遵守や雨天時や降雨後の走行は道を傷めるため走行を控えるなど独自のルールを作りながら運営されている。

■感想

府中市においても、令和元年の台風19号の発生より多摩川の氾濫を警戒し緊急避難を経験し、多摩川の水位情報の強化などが必要と考えていることから定点カメラの設置数が多い十勝川などの水害対策について学べたことは大きな収穫となった。また岩内トレイルについては、府中市でも浅間山や多摩川河川敷など歩行者とともに楽しめる観光コースとしての魅力を開拓できるのでないか。MTBオリンピックによる講演などを実施するなど市民の多様化する志向に応える取り組みとして参考となった。

（2）釧路市

■市の概要

釧路市は、平成17年（2005年）釧路市・阿寒町・音別町の合併によって、市域を拡大し人口は18万人。冬期間でも港が流水等で閉ざされることなく、道東における物流拠点となっている。今回の視察先である阿寒地区は比較的温暖な気候を利用した農業が発達しており地元の阿寒湖など豊かな観光資源を利用した旅館業や観光産業も盛んな地区である。

■視察項目 阿寒湖畔エコミュージアムセンターの概要について

担当者

一般財団法人・自然公園財団 阿寒湖支部 主任 野竿（のざお） 陽平

■視察内容

センターは阿寒摩周国立公園阿寒地域の自然環境や特別天然記念物「阿寒湖のマリモ」を展示している施設として、阿寒地域と来訪者とを結びつけるガイド的な役割を果たしている。

野竿主任の案内で、センター内1階のアクティビティサロンで展示品や床に描かれた地図などと照会しながら説明をいただいた。その中で、環境省の施設であるが、釧路市のまりも研究室として丹頂やまりもの研究を教育委員会から委託され全国にネットワークのある一般財団法人・自然公園財団が運営している。安倍政権の時に国の満喫プロジェクトとしてハード面の強化と英語などの多言語化、プロジェクションマッピングなどの導入によって強化された環境保護と観光促進の両面を担ってきたことなどが理解できた。

さらに阿寒地域の歴史やアイヌ文化の紹介、特にマリモの生態について興味深い詳細な説明をいただいた。その後敷地内の散策道から阿寒湖畔までのポック遊歩道を歩きながら水芭蕉の群生、エゾシカやエゾリスなどの野生動物が生息している説明をいただいた。実際、エゾシカやエゾリスに遭遇できたが野竿主任から説明を受けないと目の前にいながらも発見できなかったことや歩道側傍の石が泥火山の地質のため熱があることなど触れてみないと知ることが出来ず、改めて「現場を知る」ことの重要性を再認識した。

■感想

府中市の豊かな自然保護活動や観光資源として多摩川や浅間山などを紹介する取り組みや拠点が必要ではないか。その観点から国や道、釧路市からの業務委託を受け運営している阿寒湖畔エコミュージアムセンター運営協議会の野竿主任から案内をいただきながら自然保護と観光資源として両立しながら進めていくことの大切さを学ぶことが出来た。

（3）網走市

■市の概要

網走市は、人口約36,000人。知床、阿寒摩周、大雪山の3つの国立公園に囲まれた網走国定公園の中心に位置しており、緑豊かな市街地を形成している。流水や魚介類の宝庫であるオホーツク海や網走川、濤沸湖など5つの湖沼が織りなす、水と緑の自然に恵まれたまちであり、医療機関や商業施設が充実した生活環境にも恵まれている都市として評価されている。

■視察項目 網走市デジタルファースト宣言について、オホーツク流水館の概要について

ご挨拶

網走市議会議長 井戸 達也

担当者

議会事務局 次長 石井 公晶

企画総務部企画調整課 デジタル化推進室 参事 山縣 叔彦

■視察内容

はじめに石井網走市議会事務局次長から歓迎のご挨拶をいただいた。そして井戸市議会議長より「デジタルファースト宣言について」の視察後に「オホーツク流水館」を視察見学へ加えていただいたことへの御礼をいただいた。会派を代表して福田幹事長が視察受け入れの御礼と府中市の紹介をさせていただき、デジタル化推進室の山縣参事より、プロジェクターを使っての説明を受けた。その後、天都山に移動しオホーツク流水館を視察し会派視察の全日程を終了した。

網走市デジタルファースト宣言

人口減少、少子高齢化に伴う働き手の減少など様々な地域課題に対応し、ウィズコロナ・ポストコロナ時代においても継続的、安定的に公共サービスを提供していくためには、急速に進展するデジタル技術を積極的に活用しながら、行政のデジタル化を進める必要があります。

網走市は「関係人口創出」「市民サービス」「行政運営」にデジタルファーストで取り組み、誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化により、人口減少や新たな日常に対応した、持続可能なまちづくりを推進することを宣言します。

令和3年9月1日 網走市長 水谷 洋一

網走市は農業・漁業・観光が産業の三本柱であり、少子化が進むとマンパワーが出せなくなり経済的にも縮小せざるを得ないことからデジタルを活用した業務の効率化により、「持続可能な行政運営」をめざし、それぞれの課が「何をするか」を明確化した。

令和3年（2021年）10月に2022年度政策検討会を開催し、自治体DX推進計画、新庁舎建設に向けたICT等の導入に関する提言や政策検討会の原課資料網走市DX推進計画を基に作成し令和4年（2022年）2月の部長会議、市議会説明を経て網走市DX推進計画をリリースした。

2022年度のDX施策で観光やスポーツ等での「関係人口の創出」、業務フローの可視化や行政手続きのオンライン化等による市民サービスの取り組み、教育現場から公共交通、高齢者支援に至る地域社会のデジタル化等きめ細やかな事業に取り組んでいることを実感した。

オホーツク流水館では館内を見学し、流水などオホーツクの大自然と、そこで生息する動物を北海道最大級のプロジェクションマッピングで紹介。そして流水体感テラスで本物の流水に触れたり、オーロラの再現を体感することが出来た。最後に「天の都にいるような心地にさせるほど美しい」と称えられる名勝天都山の展望台では360度の大パノラマで網走市の中心市街地、網走湖、オホーツク海、知床連山まで見渡すことができた。館のガイドさんからは「まだまだコロナ禍とはいえ大型観光バス等での観光客も戻りつつあり紅葉の季節をむかえ賑わいが戻ってほしい」と期待する声を聞いた。

■感想

「市長宣言にあるように、誰一人取り残さない、持続可能なまちづくりを推進するために、行政のデジタル化を進める必要がある」とのデジタルフェローのアドバイスによって「便利だよ!」と思わせる「書かせない窓口」等、具体的な市民サービスとしてデジタル化の「見える化」を推進しており、職員にも市民にも興味を持たせるために「伝える言葉」を大切にしながら、丁寧にかつ大胆に取り組んでいることを実感できた。府中市も新庁舎の開庁に向けて、それぞれの課題に対する豊富な知識と知見を持つデジタル人材の育成に力を注いでほしいと感じた。

また、オホーツク流水館については、恵まれた自然環境を紹介できる施設として観光振興に寄与できていると感じた。府中市も郷土の森博物館など多摩地域においても優れた施設と思うので、市外からの来訪者と共に、より市民に愛される施設として運営していただけるよう期待している。

5 添付資料

ア) 説明者等の名刺写し(A4で2枚・別添)

イ) 帯広市

- ①帯広市の概要
- ②おびひろ暮らしと防災ガイド(2020保存版)
- ③帯広市の災害対策
- ④【サイクルツーリズム】これまでの取り組みについて・帯広市
- ⑤IWANAI TRAIL (A4表裏)

ウ) 阿寒湖畔エコミュージアム

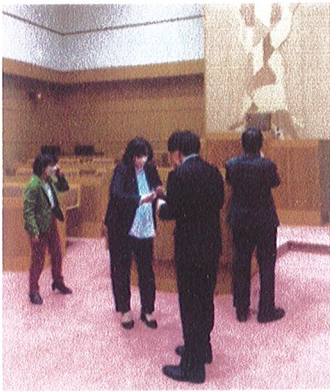
- ①阿寒湖畔エコミュージアムセンター概要HP
- ②ふれよう阿寒湖 アイヌ文化 Booklet vol.1

エ) 網走市

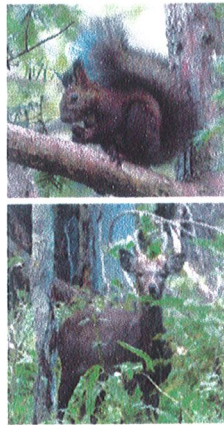
- ①網走市デジタルファースト宣言について
- ②網走市DX推進計画(抜粋版)
- ③2022年度事業計画
- ④オホーツク流水館施設案内HP

オ) 行政視察中の写真

■帯広市役所（歓迎の両市の市旗、市役所正面玄関と議場）



■阿寒湖畔エコミュージアムセンター（上段：外観とオンネトー、下段：敷地内での視察風景）



■網走市（市役所玄関と歓迎のプレート、流水館からの展望と展示室）

